

連載

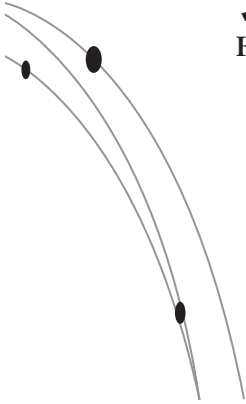
フィールド・アイ

Field Eye

台湾から——②

法政大学 寺崎 里水

Satomi Terasaki



ゴミ捨てと衛生紙のこと

日本から台湾に語学留学や交換留学で来た人たちと話していて盛り上がった話題が2つある。ゴミ捨て事情とトイレ事情だ。

台湾には日本のようなゴミ収集場所がない。公寓（集合住宅）によっては共有のゴミ収集場所を持ち、常駐している管理人など、捨てるスタッフを雇っているところもあるが、多くの場合、決まった曜日にやってくるゴミ車（ゴミ収集車）に、自分で直接、ゴミ袋を投入しなければならない。

台北のゴミ車は夜、「エリーゼのために」とともにやってくると聞いていたが、私の家の周辺では「乙女の祈り」とともにやってきた。どこからか電子音のメロディが聞こえてきたら来たという合図だ。人びとは手に手にゴミ袋を携え、歩道に集まって黄色いゴミ車が近づくのを待つ。ゴミ車が停車すると、それぞれがゴミ袋を投入口に投げ込んでいく。清潔人員（ゴミ収集作業員）は人びとが指定のゴミ袋を使用しているか、家庭ゴミではないものを捨てていないかを目視でチェックしているようだが、基本的には投入口の横に立ち、ときどき回転板を回してゴミを圧縮するだけだ。そして、ゴミ車は短い時間で行ってしまう。

街中で見かけた限りではメロディを常時流しているのではなく、収集ポイントの近くに来てから、来たことを知らせるために鳴らしているようだ。エレベーターのない公寓の5階に住んでいる友人は、メロディが聞こえてからゴミ袋を持って階段を駆け下りてくると間に合わない恐れがあるので、時間を見計らって、ゴミ袋を抱えて歩道で待つと言っていた。そう

やって待っている人は他にもいて、次第に顔なじみになるそうだ。別の友人は、顔なじみになった台湾の人に話しかけて、台湾華語の練習を兼ねた雑談をしていると言っていた。

ある時、今日のごみの日なんだよと一緒に夕飯を食べていた知人が言った。ゴミを捨てなくていいのかと聞くと、近所の高齢者をお願いしたから大丈夫だと言うので驚いた。彼の住んでいる地域では夕方6時半ごろにゴミ車が来るのだが、勤務先が遠いため、大抵の場合、ゴミ収集には間に合わないのだそうだ。家人がいるときはいいが、そうでないときはその高齢者に頼み、お礼にお菓子を持って行って少しおしゃべりするんだと言っていて、ゴミ捨てが小さなご近所づきあいを生み出していることを興味深く感じた。ゴミ捨てがきっかけで近所の人と顔なじみになって雑談をしたり、代わりにゴミを捨ててくれるよう頼んだり、日本でどのくらいそういうことがあるだろうか。

ところで、日本から来たある語学留学生にとって、ゴミ収集日にごみを捨てることはとても重要だった。なぜなら、彼女の借りた部屋では、トイレに使用済みの衛生紙（トイレットペーパー）を流すことができなかったからである。これが2つ目の話題だ。

台湾では、使用済みの衛生紙を便器内に流すことができないトイレがあるというのは、観光客にもよく知られた話だろう。トイレに衛生紙を流せない理由が下水道（汚水処理施設）の未整備にあるとするウェブサイトをいくつか見かけたが、内政部国土管理署の「統計表」を見る限り、全国で7割、台北市ではおよそ9割¹⁾の汚水処理率だとあった。汚水処理施設の未整備が原因とするのは、台湾には当てはまらないように思う。実際、行政院は、公衆衛生上の理由から、使用済みの衛生紙をトイレに流すように政策的に働きかけている²⁾。しかし、台湾の排水管は細くて詰まりやすいこと、また水流がさほど強くないこともあり、とくに古い建物や地方の町では、使用済み衛生紙をトイレに流すことができないところが多い。長い間、水に溶けない衛生紙が一般的に使用されてきており、人々に使用済み衛生紙をトイレに流す習慣が根付いていないということも背景にあるようだ。

そのようなトイレでは便器の横にゴミ箱が置かれていて、使用済みの衛生紙はそこに捨てる。大学や駅など、出先のトイレがそのタイプであることは避けようがないが、自宅がそのタイプなのはできれば避けた

い。部屋を借りるにあたって重視した事柄の1つが、トイレに衛生紙を流せることだった。なお、衛生紙を流すことができることになっている公寓でも、利用の仕方によっては当然、詰まってしまうことがある。衛生紙を贅沢に使うタイプの友人は、重要な用事がある朝に、トイレが詰まって遅刻することを2回繰り返した。私がお世話になった不動産業者にも、日本から来た人がトイレを詰まらせて業者を呼ぶ羽目になることはよくあるので注意するように、もし業者を呼ぶ羽目になったら費用は自腹だと何度も念を押された。一番いいのはトイレに衛生紙を流さないことだが、流す場合には水をケチらないこと、一度に大量の衛生紙を使わないことが肝心だとも言われた。

そして、衛生紙を購入するにあたって気を付けることを教えてもらった。第一に、衛生紙は水に溶けるタイプのものを買うこと。第二に、ロールタイプのが望ましい。台湾では衛生紙はちり紙タイプが一般的で、取り出しやすいビニールパックで販売されている³⁾。日本と同じようなロールタイプは、大きなスーパーに行かないと売っていないことがある。第三に、ちり紙タイプの衛生紙は、水に溶ける溶けないにかかわらず、居間やキッチンのテーブルの上にあって多目的に使うことができる。(その不動産業者の言うことには) トイレに行くときにそこから必要なだけ取っていくそうで、だからか、私の部屋のトイレにはペーパーホルダーがなかった。

なお、ちり紙タイプの衛生紙は、トイレに流せない厚手のものから、エッセンシャルオイルを添加して柔らかさを追求したものまで多様で、さまざまに工夫がこらされている。水に溶けない面紙(ティッシュペーパー)は硬いし、日本と同じようなボックスティッシュは高いので、私はこのちり紙タイプの衛生紙をティッシュ代わりに使っている⁴⁾。1パックから24パック入り大袋まで、さまざまな種類がある。台湾では「買一送一」(1つ買うともう1つ無料でくれる)という割引が一般的で、昨年末、私は「買一送一」の

札に気づかずに12パック入りを買ってしまい、あと3カ月の台湾生活なのに、24パックの衛生紙をストックする羽目になった。なぜシンプルに半額にしないのか、お買い得感覚の違いが知りたい。

トイレ事情とごみ捨て事情は、いずれも最初は戸惑うので話が弾む。前述の語学留学生の、絶対にごみをためたくないという気持ちはよく分かる。温暖な気候で虫が湧きやすいこともあるので、トイレごみはなおさらである。もし私がトイレの使用済み衛生紙の入ったごみ袋を持って垃圾車を待っていたなら、ごみ捨て待機仲間と交流できただろうかなどと想像する。

- 1) 内政部国土管理署「全国污水下水道用戶接管普及整体污水处理率統計表」113年1月の値。<https://www.nlma.gov.tw/%E6%9C%80%E6%96%B0%E6%B6%88%E6%81%AF/%E6%A5%AD%E5%8B%99%E6%96%B0%E8%A8%8A/51-%E4%B8%8B%E6%B0%B4%E9%81%93%E5%B7%A5%E7%A8%8B%E8%99%95/9995-%E5%85%A8%E5%9C%8B%E6%B1%A1%E6%B0%B4%E4%B8%8B%E6%B0%B4%E9%81%93%E7%94%A8%E6%88%B6%E6%8E%A5%E7%AE%A1%E6%99%AE%E5%8F%8A%E7%8E%87%E5%8F%8A%E6%95%B4%E9%AB%94%E6%B1%A1%E6%B0%B4%E8%99%95%E7%90%86%E7%8E%87%E7%B5%B1%E8%A8%88%E8%A1%A8.html> (最終閲覧 2024年2月28日)
- 2) 行政院環境保護署環境管處(2017)「環保署為甚麼要推動衛生紙丟馬桶政策?」<https://enews.moeenv.gov.tw/Page/894720A1EB490390/8581270f-b297-4a15-9c09-30bf0fcb298> (最終閲覧 2024年2月28日)
- 3) 日本のボックスティッシュのようにパックの上面から引き出す「抽取式」の衛生紙である。
- 4) 研究室に初めて行ったとき、隣の部屋の先生が、A4用紙一束とちり紙タイプの衛生紙1パックを持って挨拶にみえた。ティッシュのように使うものだと思うとありがたく使ったが、今になって本当にそういう意図だったのか、自信がなくなってきた。大学のトイレに設置されていたのは、水に溶けないから流せない、分厚い、肌触りのとても悪い巨大なロールタイプの紙だった。もしかしたら、代わりにこのふわふわの高級衛生紙を使えば肌触りもいいし、水に溶けるから流せるよ、という気遣いだったのかもしれない。

てらさき・さとみ 法政大学キャリアデザイン学部教授。
最近の主な論文に「社会経済的背景からみる子育ての様子——「幼児期の家庭環境と保護者の養育態度に関する調査」の基礎的分析」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』第19号、pp. 93-116 (2022年)。教育社会学専攻。